

## 今月の PICK UP

『明治 大正 昭和 守山 ふるさとの思い出写真集』

内田 秀雄、高橋 正隆/編 国書刊行会 M216.1ウ



守山の明治・大正・昭和時代はどんな様子だったのでしょうか。この本では、守山の町並み、農村風景、学校やお祭りなどを、守山在住の編者によって集められた約270枚の写真によって鮮やかに見ることが出来ます。現在の場所と比較してみたり、時代による服装の違いに見入ってみたりと、この本には様々な楽しみ方がありそうです。この本をきっかけにみなさんの記憶が呼び覚まされることがあるかもしれませんね。

なお、この写真集は昭和55年(1980年)に出版されたものをオンデマンド版(復刻版)として令和3年(2021年)に発行されたものです。

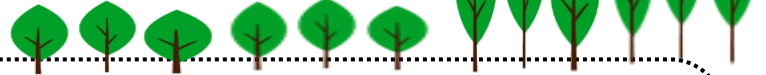
『100年後も読み継がれる児童文学の書き方』 村山 早紀/著

立東舎 909.3ム



ゆるりとおしゃべりをするような文体で綴られた、児童文学を書きたい人のための入門書。付録の中編「トロイメライ」には創作意図が細かく書き込まれていて、どんな効果を狙ってその文を書いたのかがわかり、作家志望でなくても興味を引かれます。児童文学が担うものの重みと、その書き手としての著者の矜持が感じられる1冊です。

司書の  
おすすめ



『ぼくは独り暮らしの老人の家に弁当を運ぶ』 福島 あつし/著 青幻舎 7487

本書は、10年間高齢者専門の弁当配達のアリバイトをしながら、配達先の老人たちを撮影したものをまとめた写真集。当時まだ20代だった著者は、老人たちの暮らしぶりに面食らい、はじめのうちは写真を撮ることができませんでした。しかし、関わりを深める中で彼らの生きようとする姿に圧倒され、写真家としてその姿を伝えたいという思いに変わっていきます。



『[ヴィジュアル版]歴史を動かした重要文書』

ピーター・スノウ、アン・マクミラン/著 原書房 202.9ス



誰もが一度は耳にしたことのあるさまざまなジャンルの文書の解説本です。ヴィジュアル版というだけあって、関連する写真、図録などの資料も豊富で、歴史的な出来事が手に取るようにわかります。パスポートに使うはずだった48枚のアンネの笑顔の写真が胸に迫り、ダビンチ直筆の臓器の絵の精密さに息をのみます。貴重な文書を目にする機会になるはずですよ。



『ニワトリと卵と、息子の思春期』 繁延 あづさ/著 婦人之友社 646.1シ

「ゲーム買うのやめるからさ、その代わりニワトリ飼わせて」反抗期を迎えた小6の息子がいる日突然言い出した言葉。啞然とする母を置いて、息子は〈ニワトリ飼育計画書〉を書き、大家さんに飼育の許可をもらい、養鶏ができる土地まで探してきます。その情熱に押されてニワトリを飼い始め、卵の採取、ニワトリの死、捌いて食べるまでを家族で経験していく様が、写真家である著者の写真を挟みながら率直に描かれています。

